

乗る人すべてに移動の喜びをもたらす、上質で快適な空間

素材、質感、面、色など、相反するものを積層させて新しい表情を作り出す

「レイヤード・フローティング・コクピット」という考え方から、先進的で質感の高いスポーティーなコクピットを表現。

その上で、包まれ感のある助手席や、乗る人をもてなすことのできる後席空間など、それぞれの席に求められる機能と価値を徹底して高めました。

柔らかく立体的なレイヤードラウンド骨格

インストルメントパネルは、シンプルな黒のダッシュボード部に、硬質なシルバー加飾のTゾーンを重ねてコントラストをつくり、先進感のあるフローティング効果を狙いました。

その上で、HYBRID LXとHYBRID EXでは、助手席側インストルメントパネル部に柔らかな質感のソフトパッドパネルを採用。羽を広げたように伸びやかに弧を描くTゾーンの造形と相まって、さらなる包まれ感と広がりを感じていただけることを目指しました。



インテリア全体の確かな「素材感」

インテリアを構成するパーツの「素材感」を大切にしました。Tゾーンは、金属の質感を持った塗装を施すのに加え、曲面の取り方、線の入れ方等、実際にアルミで実現が可能な造形とすることで質感を向上。同様に、助手席側に配したソフトパッドパネルも、単に触感の柔らかさにとどまらず、実際に縫製が可能な形状とするなど、様々なクルマを乗り継いできた方にも満足いただける上質感を追求しました。



使いやすさと美しさのあるインターフェイス

機能が集中するセンターパネルは、高輝度塗装で周囲を囲み、インストルメントパネルの中で一際目立つようにデザイン。ドライバー側に傾けた造形とすることで、運転中も直感的に操作しやすくすることを狙いました。メーターは、見やすさに加え、ドライバーが常に目にすることになる「計器」としての新しい美しさを追求。

一般的なメーターは、数字や目盛りを印刷した盤面の上にアクリル板を一枚被せる構造なのに対し、グレイスでは間にもう一枚挟み込むことで、立体感のある造形としました。外周がブルーに光るデザインとあわせ、上質感を高めています。



■センターパネル



■メーター